

10-11 初めての現場所長！経験不足で八方塞がりの状況に

1. 立場と仕事

ゴルフ場の全ホールに電動カート用の道路を設置していく工事に施工会社の現場所長として携わった。入社13年目で所長は初拜命であった。工期は半年と短く工事規模も小さいため、元請けの社員は自らのみ（一人現場）であった。営業を継続しながら工事を進めるため、ゴルフ場の営業時間後である15時～24時の準夜勤での施工であった。

2. 遭遇した事態

今までの同種工事の経験もあり業務自体は面食らったものではなかったが、現場所長という立場で協力会社に指示をすることや、発注者と交渉するのは初めての経験であった。また、ゴルフ場の営業に支障を与えないため、決められた工期は厳守だった一方で、改修工事ということで発注者からの契約外の追加要望（あれもやってほしい、これもやってほしい）は増えていった。

現場マネジメントの経験不足から先が見通せず、仕事が増えていくことに対して対応が後手にまわり、負のスパイラルに陥った。一人現場であるので、身近に相談できる社員はいない。一人で何もかもを背負い込み、経験豊富な協力会社の助言に対しても、聞く耳を持たなかった。そればかりか、言うことを聞かない協力会社に対して威圧的な態度で一方的に指示を与える始末。今から振り返ると、感情のままに話していたように思う。

ある時、思い余って会社の会議に出席した折に上司に孤独な状況を話してみた。ところが、言い方が拙かったこともあり、「所長として行かせているのだから、おまえがしっかりやれ」と怒られる始末であった。

まさに、八方塞がりの状況であった。

3. 対応内容とその結果

工事自体は、段取り不足にも関わらず、協力会社及び作業員の努力のおかげで無事工期内に完了することができた。またQCDSE管理も問題なく、発注者からは大変喜ばれた。これだけだと、初の現場所長としての現場マネジメントは大成功だったように見える。

一方で、竣工後振り返ってみると、無理な注文に応えてくれた協力会社の作業員に対してねぎらいの言葉ひとつかけることがなかったことなど後味の悪さが残った。圧倒的にコミュニケーションが不足していたように思う。

工事はトラブルなく竣工したが、現場所長としてのマネジメントに関しては反省すべき点が多い現場であった。実際に作業をするのは“人”であり、その“人”をいかに上手く指揮し使っていくかが、現場マネジメントにおいて非常に重要である。八方塞がりの状況を打開するには、本来なら所長として組織（現場）の目標を定めて協力会社の作業員全員と共有することが近道だったはずである。現場をマネジメントする上で、協力会社とのコミュニケーションや雰囲気作りの大切さについて身を持って知る事ができた。